

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日朝食を食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の問いに対する肯定的回答の割合は順に95.6%、84.7%、90.1%で、いずれも高い結果となった。これからも規則正しい生活の大切さを伝えていき、理科や体育の保健分野と関連させて、健康的な生活が送れるように指導していきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対する肯定的回答の割合は69.3%で、全国平均を7.3ポイント下回った。そして、「当てはまらない」と答えた児童の割合は13.2%であった。一人一人のよさを認め合う声掛けを増やしたり、友達同士でよさを認め合う時間を充実させたりして、自分や級友のよさを感じられる雰囲気づくりに努めていく必要がある。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに対する肯定的回答の割合は95.6%で、高い結果となった。最高学年として、他のために働く意識付けを図るとともに、学校行事、児童会活動など様々な場面を通して頑張りを認める声掛けをし、児童が行動に移していけるように支援していきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに対する肯定的回答の割合は73.7%で、全国平均を15.6ポイント上回った。また、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の問いに対する肯定的回答の割合は63.8%で、全国平均を11.4ポイント上回った。地域の一員として、行事に参加したり、活動したりする素晴らしさを伝え、地域に貢献できる態度を育成していきたい。

●「国語の勉強は好きですか」の問いに対する肯定的回答の割合は53.9%で、全国平均を4.5ポイント下回った。しかし、「国語の勉強は大切だと思いますか」の問いに対する肯定的回答の割合は97.8%と高い結果になっている。国語の言語分野、話す・聞く、書く、読むといった様々な要素を生かした活動的な内容を取り入れながら、児童の興味・関心を高める工夫をして授業を行っていききたい。

●「算数の勉強は好きですか」の問いに対する肯定的回答の割合は55.0%で、全国平均を12.8ポイント下回った。しかし、「算数の勉強は大切だと思いますか」の問いに対する肯定的回答の割合は94.5%と高い結果になっている。算数には苦手意識をもっている児童も多いため、毎回の授業の質を高め、内容をきちんと理解することのできる児童を増やしていく必要がある。また、AIDリルを活用して、何度も繰り返し問題練習ができる機会を設け、速く、正しく計算ができるようにしていきたい。

○「新型コロナウイルス感染症拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか」の問いでは、「家族に聞いた」が83.5%で、「自分で調べた」が67.0%と、順に多い結果となった。また、「分からないことをそのままにした」と答えた割合も15.4%であった。今後の休校に備え、家庭での協力を得て学習することができるように、連携を図っていく必要がある。また、GIGAスクールによる個人用端末を活用して自分で調べることもしやすい環境が整ったため、分からないことは自ら解決していけるような態度を身に付けさせ、自分で調べ、考え続ける児童を育成していきたい。

宇都宮市立横川中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年度初め4月に、家庭学習に関する保護者あて通知を出し、保護者と連携をとりながら、家庭学習や自主学習への理解・協力を呼び掛けることで、基礎・基本の着実な定着や学力向上に向けた指導を行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強してる」の項目の肯定的に回答した児童の割合は71.5%であった。
授業におけるめあてとまとめ・振り返りの充実	授業の最初に本時のめあて、最後にまとめを板書して確認することで、児童一人一人が本時の学習内容を振り返り、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組めるようにしている。	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う」の項目の肯定的割合は、86.8%である。
話し合い活動の充実	本校の研究主題「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成 ～言語活動「書くこと」を通して～」のもと、ペアや小グループ、学級全体での対話や話し合い活動で使う話し方の例を示すことで、各学年・各クラスの実態に応じた対話や話し合い活動を行うようにする。	「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」の項目の肯定的割合は、52.8%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。」の質問に対して、「当てはまる、または、どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合は、82.4%で全国より10.8ポイント上回っている。しかし、「書くこと」の平均正答率は53.4%で、全国の平均よりも7.3ポイント下回っている。	国語科をはじめ、各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えを文章にまとめたり、発表や説明をしたりする機会を計画的に設ける。	国語科の学習を中心に、学年の発達段階に応じて、各教科・領域の学習の中で、書く内容やテーマ、字数などを決めて、自分の意見や考えを文章にまとめたり、発表や説明をしったりする機会を計画的に設けるような指導・支援をすることで、書くことへの苦手意識や抵抗感をなくすよう努めるとともに、思考力・判断力・表現力のさらなる育成を目指す。